

新着案内



『どろぼう妖精と見習い魔女』		
こまつ あやこ/作	静山社	T/コア
『見た目で好きになるってダメですか?』		
神戸 遙真/作	講談社	T/コハ
『空と花のパレード』		
天川 栄人/作	くもん出版	T/テエ
『都会のトム&ソーヤ』 22		
はやみね かおる/著	講談社	T/ハカ
『13人の魔女への扉』		
長谷川 まりる/著	理論社	T/ハマ
『SAKAMOTO DAYS』		
鈴木 祐斗/原作 はの まきみ/著	集英社	T/ハマ
『スマホを見てただけなのに! 13歳から知っておきたい情報社会のかしこい生き抜き方』		
鈴木 雄也/著	KADOKAWA	T007/スユ
『法律のしごとはおもしろい! 弁護士・裁判官・検察官』		
石田 京子・濱中 淳子/著	岩波書店	T366/イキ
『知りたい! 専門学校文化・教養分野』		
木村 由香里/著	ペリかん社	T376/キユ
『栄養素の通になる 食品成分最新ガイド』		
上西 一弘/著	日本栄養大学出版部	T498/ウカ
『ソードアート・オンライン』 29		
川原 礫/著	KADOKAWA	TB/カレ
『日本史探究時代を作った人 鎌倉・室町・安土桃山編』		
DBジャパン/編集	DBジャパン	TR281/ニホ



ティーンズのココロ通信

令和8年7月1日 発行

Eメール: info@lib-yama.jp

HP: <https://www.lib-yama.jp>

山口市立中央図書館 271号

〒753-0075 山口市中園町7-7

TEL: 083-901-1040

FAX: 083-901-1144



謎



今月のテーマは「謎」です。

もうすぐ夏休みですね。

この夏は、いつも時間がなくてできない読書に挑戦してみましよう。

ハラハラドキドキのミステリーものや、日頃、不思議だと思っていることを探求してみてもいいかもしれません。



●『ヴィンデビー・パズル』

ロイス ローリー／著 新評論 TF／ラロ

この物語が生まれたのは、作者ロイスが1952年ドイツのヴィンデビーの沼地で発見された2000年前のミイラに興味を持ったことがきっかけでした。ミイラは当初13歳の少女とされ、後に16歳位の少年だとわかりました。ロイスは少女エストリルトと少年ヴァリクをそれぞれ主人公にした2篇の物語を綴り、少年(少女)はなぜ沼地で死ななければならなかったのか、その死の謎に迫ります。歴史的事象の説明やミイラの写真もあり古代へのロマンを感じる作品です。

(H.S)

●『世にも奇妙な日本語の謎 日本が好きすぎて日本に帰化した元アメリカ人の応用言語学者が語る』

アン クレシーニ／著 フォレスト出版 T810／クア

あなたは、日本語について考えたことがありますか？母国語として馴染みがある分、考えたことのない人が多いかもしれません。日本語は言語習得が難しいといわれており、理由としては、文字が漢字、ひらがな、カタカナと3種類の文字があること、日本語の会話を理解するために5000語の語彙の理解が必要なことなどがあります。ほかにも敬語や助詞など日本人でも難しいルールがたくさん…。今まで考えたことがなかった日本語の“謎”について知ることができる1冊です！

(K.O)

●『引きこもり姉ちゃんのアルゴリズム推理』

井上 真偽／著 朝日新聞出版 T／イマ

綿引真守はごく普通の小学6年生の男の子。真守の姉、綿引古文里は何年も引きこもりをしていて、人嫌いだし風呂嫌い。人と話す時は可愛い女の子のAvatar越しじゃないと話せません。でも、アルゴリズムという不思議な方法を使って、真守の周りで起こる様々な事件を解決していきます。謎解きをしながら、究極の論理思考であるアルゴリズムを楽しく学んでみましょう。

(A.N)

●『なんで人間にはしっぽがないの？ 二度の喪失の物語』

東島 沙弥佳／著 新泉社 T481／トサ

中学1年生の千鶴は大学でしっぽの謎をテーマに研究している叔母の杏奈ちゃんが大好きでした。ところが、杏奈ちゃんが交通事故で突然亡くなります。千鶴は杏奈ちゃんが大学に残した荷物の片づけを手伝うことにしますが、その中で今まで知らなかった杏奈ちゃんのことを知り、勉強と違って研究は楽しいと思うようになります。そして、将来自分もしっぽの研究者になりたいと思います。作者は現役のしっぽ研究者でしっぽについての解説も面白く読めます。(H.S)

●『夏に泳ぐ緑のクジラ』

村上 しいこ／作 小学館 T／ムシ

中学校3年生の夏、両親の離婚で母方の祖母の住む島に預けられることになった京。「自分は捨てられた」と感じ、不安や孤独に苛まれている中、謎の妖精「つちんこ」に出会います。「つちんこ」は、孤独につぶれそうになっている子供の前だけに現れます。「つちんこ」は優しい言葉はかけてくれず、自分で考えさせるような言葉を投げかけてきます。反発しながらも、自分で考え孤独に向き合う子供たちに勇気をもらえる作品です。

(K.O)

●『古代文明と星空の謎』

渡部 潤一／著 筑摩書房 T440／ワシ

古来、人々は星空から暦を導き出し、精密な方角を調べていました。古来の人たちはどのように星を眺め、何に利用していたのか、古代の遺跡や記録などからそれらを読み解く、天文学と考古学の関連性に焦点を置いた「古天文学」と呼ばれる分野があります。ストーンヘンジやピラミッドなど、世界遺産にも登録されている遺跡からも天文学的な要素が導き出せるのです。当時の星空を予測しながら、古代文明を紐解いていきましょう。

(A.N)